

「二八水」の記念碑が伝えるように、水害の記録を後世の防災に活かすことも大切です。昨年8月の豪雨では、南多久町の井堰復旧記念碑付近で浸水被害があつたほか、川の氾濫や土砂崩れなど、市内全域に大きな被害があり、現在も完全復旧・復興に向けた活動が続いている。

これから防災に生かすために



▲本には多久市の災害歴史遺産がくわしく記されています

問 佐賀県防災士会
佐賀市中折町1-21



過去に起こつたような災害が再び起ころうかも知れないと、教えてくれる災害歴史遺産の訴えを次の世代へと伝えられるように、私たちも地域の災害リスクを知って、いざという時に備えましょう。

「布田棕町 井堰復旧記念」の碑付近
「災害歴史遺産は、その場所で起きた過去の災害を伝承するものです。大切に保存して伝え続け、過去の教訓を忘れないようにしたいですね。さらに、災害歴史遺産が地域で話し合う場を作り、助け合いながら防災に取り組むきっかけになれば嬉しいです」と、今もなお調査を続ける本山さん。地域で役立てられる教科書を作りたいと、平成27年には『佐賀県の災害歴史遺産』と題した本を発刊しています。

防災士の本山さんから、災害に備える上で押さえたいポイントを伺いました。

各家庭に合った 災害対策を

自宅周辺を歩いて地形を知ろう

被害発生の危険がある場所など、防災に役立つ情報が書かれている多久市の「防災ハザードマップ」を参考に、自宅の周辺を歩いてみましょう。実際に歩くことで、あふれた水がどう流れるかなどが分かり、避難経路をあらかじめ確認できます。



非常持ち出し品は 必要最少限に



備蓄品と持ち出し品は
分けよう！



非常持ち出し品の中身

★必ず持ち出す 他人に借りられないもの



★できれば準備 避難所生活であると良いもの



最も大切なのは「自分の命を守ること」です。まずは命を守る行動を取りましょう。